

貝合對末こ口傳

一 對末のりれ句百枚岡のみくあふ
金也のへ組四ッの端と天子の
し製あうべト也

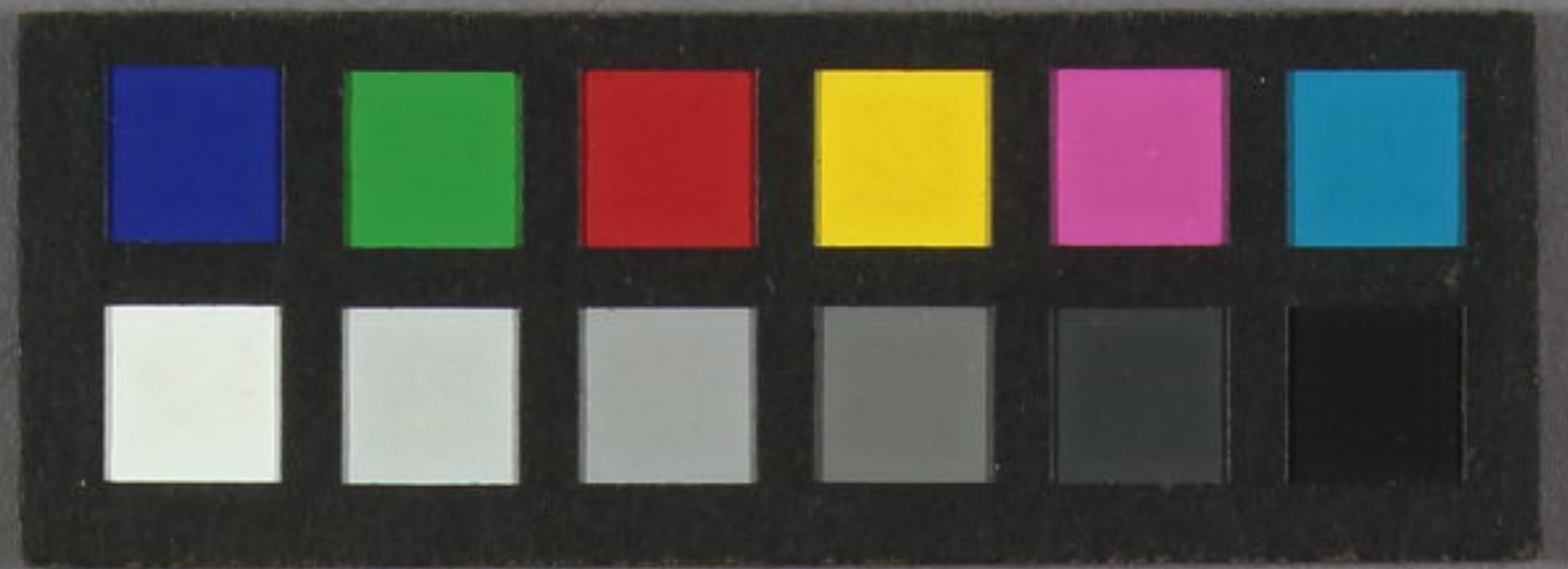
一 ちこ毛襦を袖く八通う十に
あふへトし中以上の句動は
何けとひりず也

一 字頭いつまといちなりを人
うとえなり

一 小女は側あてに合せも對末と
うりふ入るりゆへ下すのめり

一 小女さほまをぬるほの下の句とち
あふのひえりし上り後也

一 上の句かきあふめりるねとこ
れとに何けとめりるくものなり



一 對末の下の句は枚と岡のふくはふ
木やねもあふ下もはりて巾の
明きるは上上の句をしを上の句
はまかりりむうそなく也
一 女つく上の句はみねを^たる裏
返して也

一 御前をふり下対かみの句を
かしき物下乃句をかしき物に
百ねにあり終上の句とより
一 女を中かなくもの

一 上の句は女をけと對尾は秋の
歌とみねけへはるまやの歌と
上めをのこ下はみねへ入も
あとのみ

貝合之事

一 貝合の多人ね定あしき
とあるはあは者まへに側にあ

貝合之事

一 凡貝合の多人好定あしきり少め
とあるはあは者ましく側のあ
を貝のし用等動りまの少めをい
遠あるはの貝とち意とて合あて
うしと申や〜あ

一 貝のふりふん毛せんをみて貝を
置ふしはかひなうり右定なり

一 地貝云るは十箇のみくありし

中のふしとあまうりあは

あ通とあふり山田望よりあ

中と四角あは二角あはあは

あはあはあはし

一 貝元の後より貝と少蓋あは入

右の腹よりあはあはあは

あ中のふは美なりあは

一 仰側のあはあはあはあは

中と四角あは之角あはあは

あはあはあはあはあはあは

貝元の紋あは貝とあ蓋ああ入

右の眼あはあはあはあはあは

あ中のあはあはあはあはあは

あ側あはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあはあは

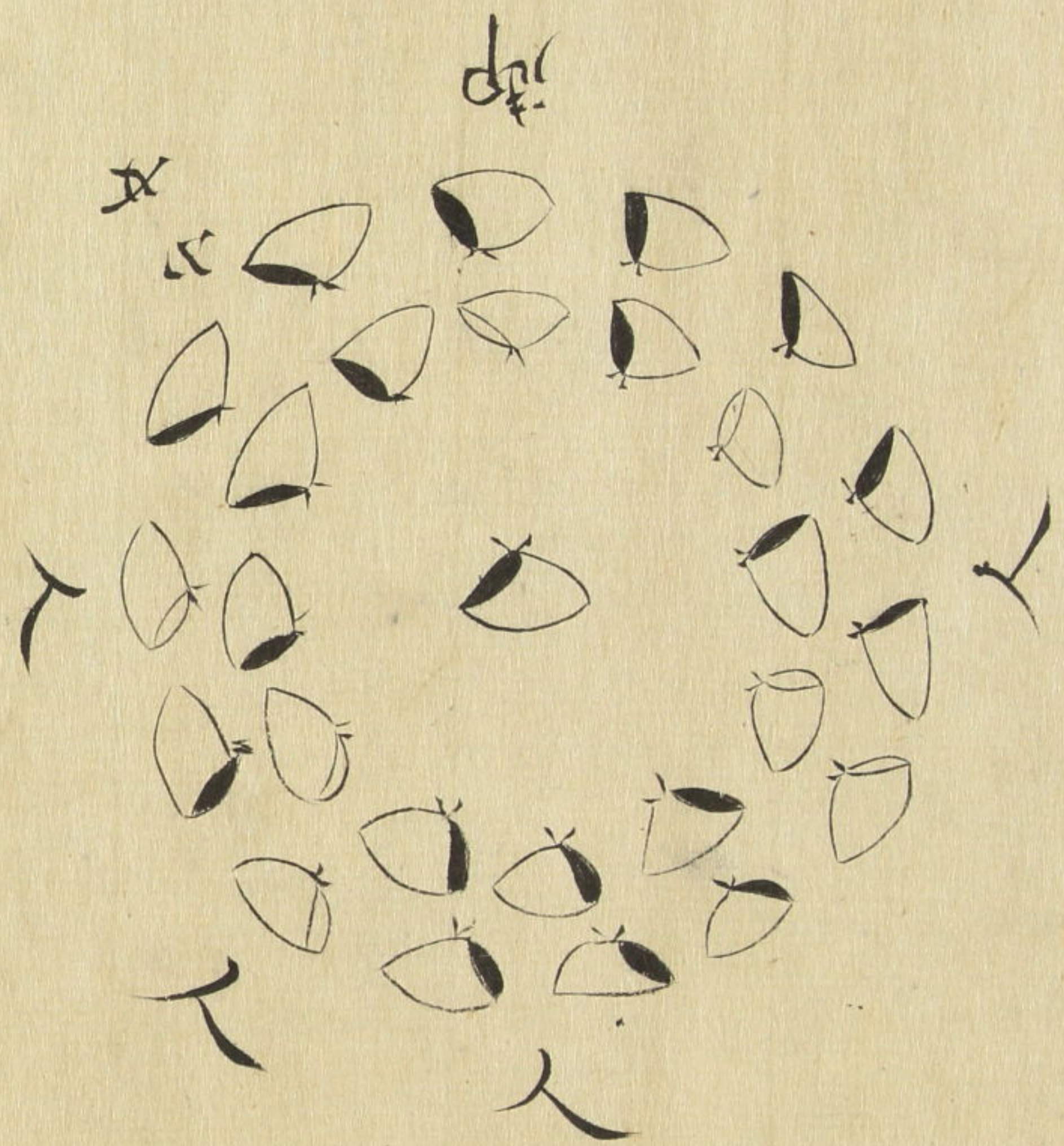
あはあはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあはあは





古一卷者雖初更依
御執心不淺記進之
畢忘不可有他見者之

水嶋卜也

之成

伊藤甚者也

華氏

水嶋卜也

之成

伊藤甚右衛門

幸氏

同

隼太

幸亮

同

将曹

幸智

同

隼

幸辰

松

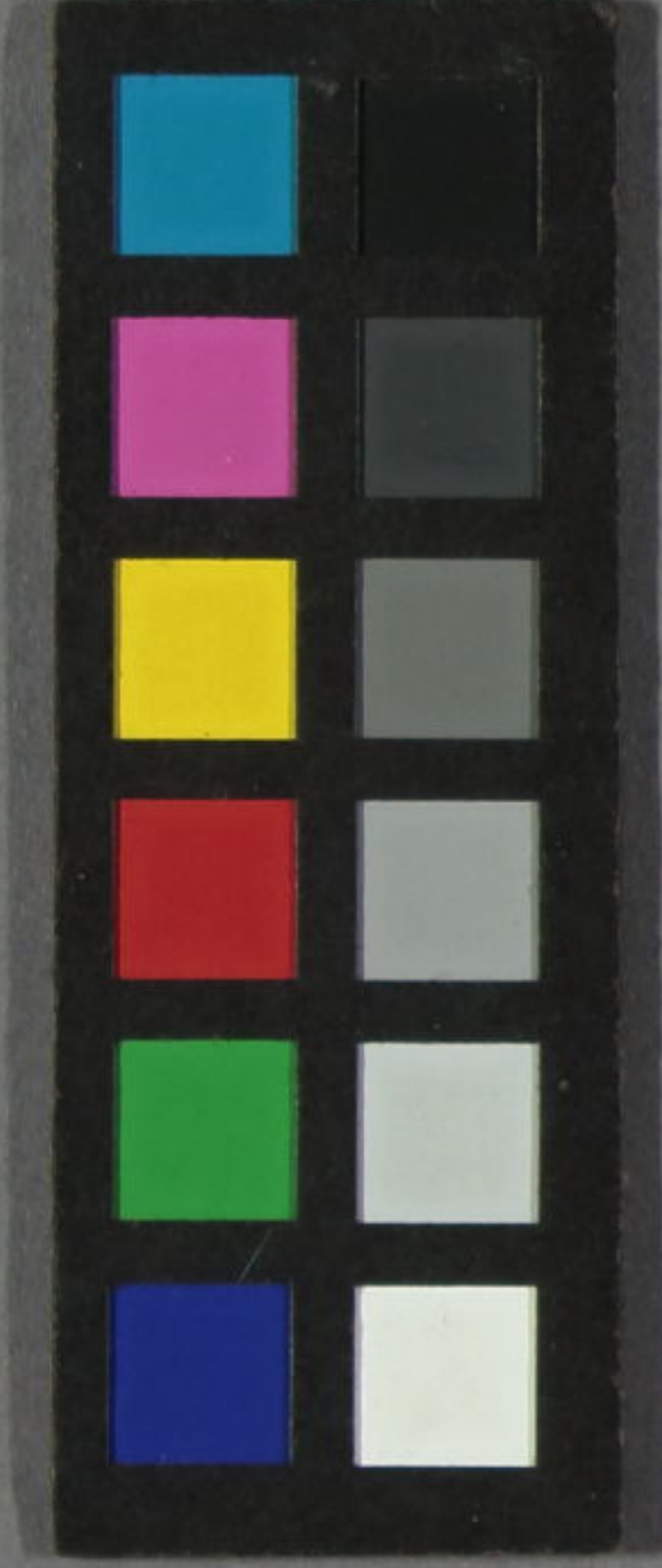
岡清助

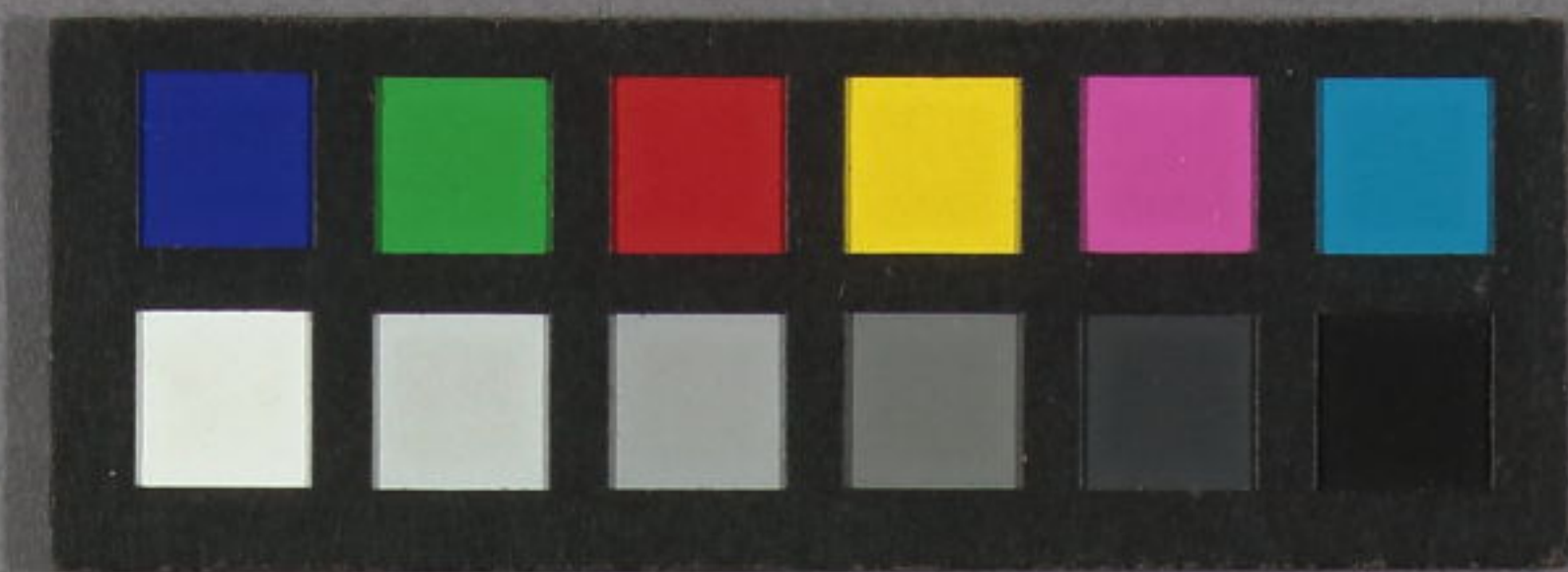
辰方

本

岡







貝合封末、12件

73
3645
99

7保
3645
99
16

本間文庫





73
3645
99